2026 年 11 月 12 日

各　位

会社名　　株式会社情報戦略テクノロジー
代表者名　代表取締役社長　　高　井　　淳
（コード番号：155A　東証グロース市場）
問合せ先　取　締　役　　瀧　本　　崇
（TEL 03-6277-3461）

【特別対談 about AI #3】「AI の幻想」を捨てたとき、真の DX が始まる――伴走型開発ソリューション「0 次 ACE」と、AI 時代に真価を問われる「ヒューマニティ」を語る対談記事（前編・後編）を公式 note で公開

～代表取締役社長 高井と執行役員 東が語る、経営と現場の分断を溶かす共創のかたちと、日本企業に眠る「秘伝のタレ」の解放～

株式会社情報戦略テクノロジー（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：高井 淳、以下「当社」）は、当社が長年提唱してきた「0 次 DX」を AI 時代の手法として進化させ、2026 年 6 月にサービス提供を開始した伴走型開発ソリューション「0 次 ACE（ゼロジ・エース）」をテーマに、代表取締役社長の高井 淳と執行役員の東 友和が語り合う特別対談記事「【特別対談 about AI #3】」を、前編・後編の 2 回にわたり公式 note にて公開いたしましたことをお知らせいたします。

本対談では、代表取締役社長の高井 淳と執行役員の東 友和が対談し、AI を「人間の不得意を埋める道具」と捉え、人間が得意領域に集中するという当社の AI 活用の考え方を軸に、前編では、経営層・事業担当者・エンジニアが対話のその場で「同じ絵」を共有する 0 次 ACE の仕組みと、開発スピードがもたらす価値を、後編では、日本の大企業に眠る無形の資産を AI で可視化して再び世界へ打ち出す構想と、AI が当たり前になる時代に差別化の源泉となる「ヒューマニティ」の意味を語っています。





記

■公式 note 記事 概要

記事タイトル（前編）：【特別対談 about AI #3】（前編）「AI の幻想」を捨てたとき、真の DX が始まる──新構想「0 次 ACE」が打破する開発の分断と、圧倒的スピードの正体

記事タイトル（後編）：【特別対談 about AI #3】（後編）大企業の「秘伝のタレ」を解き放ち、ふたたび世界を魅了せよ──AI 時代に真価を問われる「ヒューマニティ」と、修羅場に立つ若者たちへ

対　談　者：代表取締役社長　高井 淳

執行役員　東 友和

記事公開 URL：

・前編：https://note.is-tech.co.jp/n/nee571943e4bc

・後編：https://note.is-tech.co.jp/n/n0075201397a2

■対談記事のハイライト（前編）

１．幻想を脱ぎ捨て、人間の「得意領域」に回帰する

◇AI は万能の魔法ではなく、不得意を埋める道具である

「誰もが AI を使いこなして便利になる」という風潮に一線を引き、AI は人間が得意領域に集中するための「道具」であるという当社の考え方を提示。AI によってプロトタイプや検証を回すスピードが上がり、複数のアイデアを同時に動かせるようになったことで、現場に埋もれていたアイデアを形にしやすくなった変化を語ります。

２．共通言語としての「0 次 ACE」

◇経営と現場の分断を溶かし、「同じ絵」を瞬時に描き出す

当社が長年提唱してきた 0 次 DX の実践手法を、誰もが再現できるよう体系化した 0 次 ACE。ミロ・ジャパン合同会社とのパートナーシップのもとで活用する AI イノベーションワークスペース「Miro」と AI を組み合わせ、対話のその場で構想を図や画面イメージとして可視化することで、顧客企業の経営層・事業担当者・エンジニアが同じ視座でゴールを共有する仕組みを紹介します。

３．ビジネスの勝敗を分かつ圧倒的なスピードと破壊力

◇「空振り率」をゼロに近づけ、商機を逃さない

コードを書く前の段階でゴールイメージをすり合わせ、開発の初期段階でアイデアの取捨選択を進めることで「空振り」を減らす考え方を解説。IT 投資を開発費の削減幅ではなく、狙った市場へ届けるまでの時間価値で捉える経営の視点と、専門特化した AI エージェントを開発プロセスに組み込む取り組みを語ります。

４．職種の境界線を越えるエンジニア──顧客との共創の現場へ

◇「分断の壁」を越え、課題解決のパートナーへ

AI が定型的な作業を担う時代に、エンジニアが職種の垣根を越えて要件定義から実装までを横断し、顧客の経営課題に向き合うパートナーへと役割を広げていく姿を描きます。「技術ができるコンサルタント」であり「ビジネスがわかるエンジニア」である人材像と、これからの顧客企業と IT パートナーの関係性を語ります。

■対談記事のハイライト（後編）

５．大企業の「秘伝のタレ」を分解し、新たなスパイスを加える

◇眠れる無形の資産を可視化し、世界市場へ解き放つ

日本の大企業が長年継ぎ足しながら守ってきたシステムや業務フローを「秘伝のタレ」にたとえ、AI で構造を可視化し、良さを生かしながら今の時代に合わせて再構成するアプローチを紹介。AI の性能による差別化が難しくなる時代に、日本企業が育んできた歴史・文化こそが世界市場での強みになるという視点を語ります。

６．「ヒューマニティ」の真義

◇知と知、心と心が化学反応を起こす瞬間

お客様が仕事を託してくださる最大の理由は「人への信頼」にあるとし、言葉になっていなかった想いや概念を対話のなかで引き出すプロセス、そして「御社」「自社」という境界線を引かずに垣根を越えて共に挑む姿勢こそが、当社の掲げるヒューマニティであると語ります。

７．若き挑戦者たちへ

◇自ら修羅場へ飛び込み、魂の種を開花させよ

若手社員・エンジニアに向けて、自ら手を挙げて挑戦の場に飛び込むことの意味を伝えるとともに、0 次 LAB という場を通じて挑戦の機会を提供し、その挑戦を後押しする当社の姿勢を語っています。

■代表取締役社長 高井 淳 のコメント（対談より抜粋）

「これから 3 年、5 年と経てば、AI 自体の性能や機能で差別化できる時代は確実に終わります。誰もが同じように高性能な AI を使えるようになるからです。そのとき、最後に残る差別化の源泉は何か。それがまさに『ヒューマニティ』なんですね。（中略）日本固有の強みを持った大企業が、IT という翼を得て世界へ羽ばたき、再びグローバル市場を魅了していく。（中略）これこそが、IST が挑むべき最大の使命なんです。」

■執行役員 東 友和 のコメント（対談より抜粋）

「0 次 ACE を一言で表現するなら、すべてを『共通言語化する仕組み』です。顧客企業の経営層も、事業担当者も、現場のエンジニアも、周りで伴走するスタッフも、全員がまったく同じ視座・同じ目線で物事を捉えられるようにしたいんです。」

■今後の展望

当社は、0 次 ACE をはじめとする、AI とヒューマニティを掛け合わせた共創の取り組みを通じて、お客様の潜在能力を解き放つ支援を目指してまいります。今後も公式 note をはじめとする情報発信を通じて、当社の AI 活用の考え方と実践の取り組みを順次お届けしてまいります。

■関連リリース

2026 年 6 月 30 日「「全員が、同じ絵を見てプロダクト開発を進める」次世代の伴走型開発ソリューション「0 次 ACE」をサービス提供開始」

https://ssl4.eir-parts.net/doc/155A/tdnet/2845645/00.pdf

※記載されている会社名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。

■会社概要

【株式会社情報戦略テクノロジー】

会社名：株式会社情報戦略テクノロジー（東証グロース・155A）

代表者：代表取締役社長 高井 淳

所在地：東京都渋谷区恵比寿四丁目 20 番 3 号 恵比寿ガーデンプレイスタワー15F

電　話：03-6277-3461

事業内容：大手企業向け DX 内製支援サービス等

URL：https://www.is-tech.co.jp/

以上